

学年チーム担任制



学年チーム担任制のねらい

- ひとりの時、集団の中にいる時、子供たちの立ち振る舞いは、状況に応じて変わります。自我が芽生える思春期ではその傾向が著しく、教師は「集団秩序の管理」と「一人一人の個性の理解と配慮」を両立させることを求められます。
- 変容する子供の行動や態度を見守るには、カウンセリングマインドによる受容的な対応や気づきを促すコーチング等の細やかな指導が求められます。しかし、大勢の生徒一人一人に対し、教師一人で対応することは簡単ではありません。
- 「全体を管理すること」と「個に寄り添うこと」は相対するものではなく、共に子供の姿や心の変化を見逃さずに、タイムリーに対応することが大切です。日々の様子を比較できる単独の担任の方が変化に気づきやすい面はありますが、毎日、子供と接していることで見慣れてしまうこともあります。
- 複数の教師による担任制は、「多くの異なる視点で変化を見取ること」や「子供が話しやすい教師に相談できること」で、いち早く問題に気づき、一人一人に応じた支援をチームで行うことをねらいとしています。

学級担任制の特性

ワンオペレーション（独立性）

担任である教師一人が、責任と権限をもち学級経営に当たります。具体的な指導方針や方法については、担任それぞれの考え方、経験、個性が反映され、学級ごとに特色がでます。

マルチタスク（多種業務）

授業やその準備以外に、生活の記録や担当教科の宿題の点検、子供の健康や心の状態の観察、声かけや生活指導、家庭への連絡など、一日の中で同時に多種業務をこなすことを求められます。

- 担任に情報共有の判断や指導法の裁量が任されているため問題が表面化しにくく、自負をもって解決に当たることで結果的に解決が困難になるケースがあります。
- マルチタスクの量が担任のキャパシティを越えると、一人一人に応じて多角的な見方で判断したり、アサーティブで多様な対応をする余裕がなくなることもあります。

学年チーム担任制の特性① 【異なる、多くの視線で見守る】

教師が学級と関わる頻度のイメージ

【学級担任】	【学年チーム担任】
朝の会	朝の会
授業	学年担任の授業
学級担任の授業	授業(他学年職員)
授業	学年担任の授業
授業	学年担任の授業
給食	給食
昼休み	昼休み
清掃	清掃
学級担任の授業	学年担任の授業
授業	学年担任の授業
帰りの会	帰りの会

- 中学校は教科担任制で、複数の教師が交代で授業に入り、それぞれに子供に関する情報を持っています。
- チーム制により、視点が異なる複数の教師が、担任の意識で教室を見守っていることが利点の一つです。

□ 週あたりの授業数が少ない教科担当の教師は、同じ学級で再度授業に入る機会が少ないので、チーム内での役割に留意することが求められます。

○ チーム内での情報共有や共通実践を図るため、職員朝会の中でチームのミーティングを設定しています。そのため、従来行っていた全体朝会を取りやめ、全て学年での職員朝会を行っています。

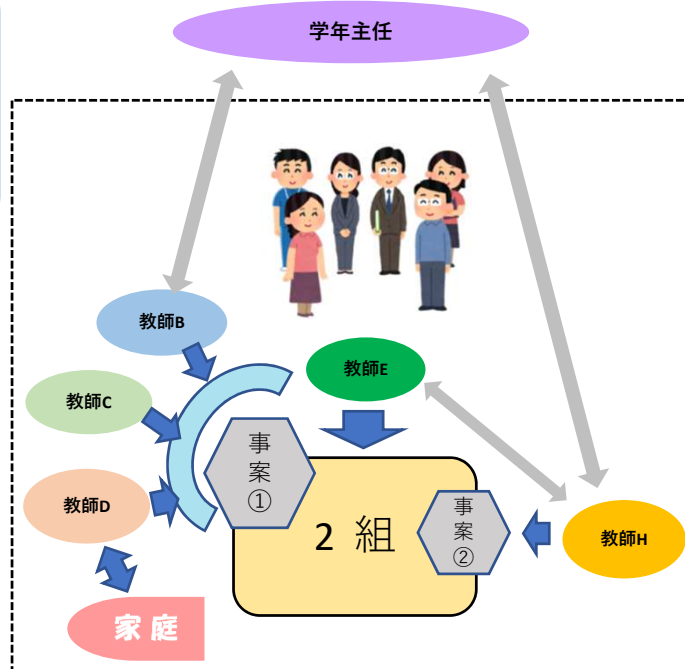
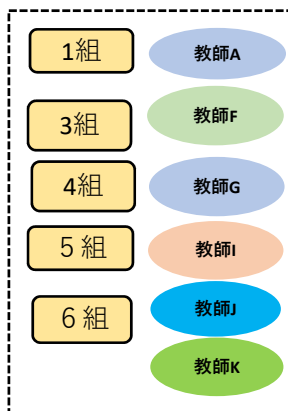
○ 気になる子供の姿があれば、直ぐに情報を共有し、チームや学年全体で生活の様子を見守る体制をつくります。



学年チーム担任制の特性② 【個に応じる支援・指導】

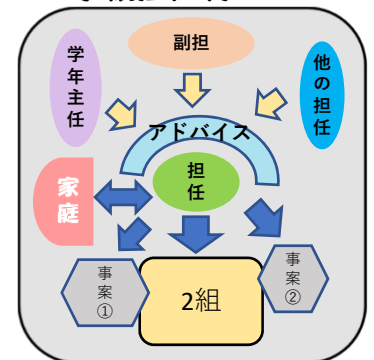
思春期に抱えがちな諸問題に、マンパワー(人数と適材)を集中させ、速やかな解決を図る体制

子供との関係性や教師個々の得意分野を生かして、効果的な指導や支援を行います。



学級で複数の案件を抱えることもあります。分担して当たることで、きめ細やかな指導や支援ができます。

学級担任制では…



学年チーム担任制の特性③ 【相談しやすいことが大切】



相談したい時に、相談したい相手を選べる支援体制



■ 相談しやすいことが大切です。

教師が見守っていても、子供の世界を完全には知り得ません。特にSNSの普及とともに学校生活以外で、人間関係のトラブルに発展するケースが多く見られます。

子供が相談したいと思った時に、気兼ねなく悩みを打ち明けられることが重要です。さらに、時機を逸することが解決を困難にします。チーム担任制は、相談相手を固定せず、子供が話しやすい教師にいつでも相談できることを大切なねらいにしています。



■ 担任の先生には相談したの？

学級担任制では、子供が他の教師に相談した場合でも、基本的に学級担任に報告して、再度、担任が子供から聞き取って対応する形になります。日頃の様子を知る学級担任が当たる利点もありますが、子供にかかる負担も心配です。

相談しやすい教師との関係性には、継続的な相談や支援の効果が期待されます。その教師がチームに加わることで、スピード感のある支援体制が期待されます。



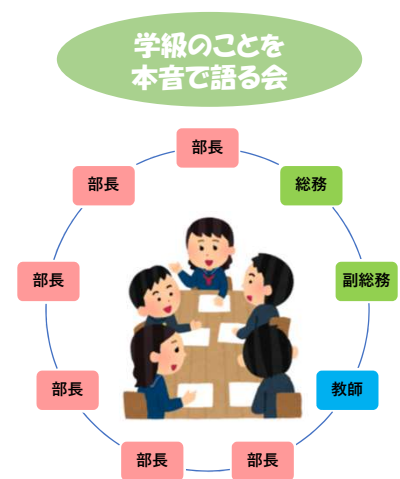
学級運営委員会の設置【大切にしたいことを共感，共有する自治力を育てる。】

学級集団にとって「相手が嫌がること，周りの迷惑になることはしない」という雰囲気は大切です。教師の指導とは別に，子供同士の世界において，思いやり・優しさが優先されるような風土が必要です。「すべき，ねばならない」的な建前ではなく，本音での対話を通して，課題の要因を共感的に受け止め，大切にしていきたいことやめざす学級の姿を，子供たちと教師が共有することをねらいとしています。

■ 学級の共感的な雰囲気をリードする学級運営委員会

- 生徒会活動の一環として，隔週金曜日の放課後に開催。
- メンバーは，正副総務と各部長から成る8名で構成。
- 普段，思っていることや悩み，困り感を自由に語り合う会（しゃべり場的な雰囲気）

- 話し合う内容は「遅刻が多い」「提出物が悪い」「私語が多い」という問題点ではありません。（その指導は教師の仕事です。）
- 学校生活を送る上で「自由に言い合える雰囲気があるか」「からかいや冷やかしが過ぎていないか」「困っている仲間がいないか」等，学級の仲間として，**大切にしたいことを共感，共有する場**です。教師もファシリテーターとして加わり，本音で語り合います。



学年チーム担任制の導入の段取り

学年経営に参画するスタイルのチーム担任制の導入には，学級経営にやりがいをもっていただいていた学級担任や担任業務を求められる副担任から異論が出ること，また，保護者にとっても学級担任がいなくなる状況は受け入れ難く，戸惑いや心配が広がることは当然であり，以下の4点を方針として，説明の準備を行った。

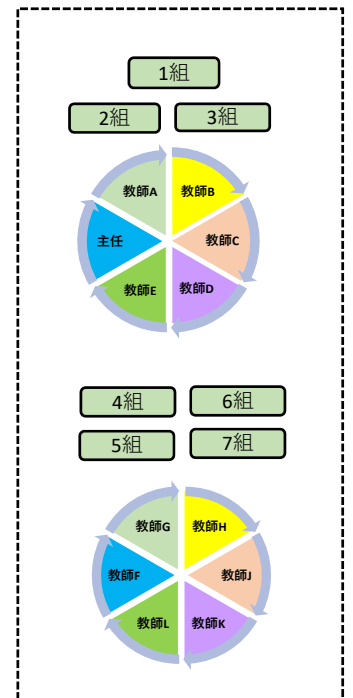
- ① 研究指定を受け，公的で継続的な取組とすること。
- ② 核となる職員と語り，共感と協働の意思を得ること。
- ③ P T A組織に沿い，三役&執行部役員，理事会，役員，該当学年役員，学年PTA等と，段階的に説明を行い，取組へのコンセンサスを広げること。
- ④ 発達の段階を踏まえ，年次的に2学年と3学年に導入し，当面の間，1学年は学級担任制とすること。

学年チーム担任制の取組の概要

【概要】

- 教師6人程度のチームで3～4クラスを担当
- 従来の学級担任の業務は、ローテーションや分割で実施
- 道徳と学級活動は、学年の全職員で担当
- 生徒指導等の案件には、状況に応じて弾力的にチームを編成
- 子供の希望による教育相談を実施（指名実績は延べ2割程）
- 生徒理解を深め、意思疎通を図る学級運営委員会を設置

- 日常の指導や連絡では、学級担任制との相違は見られていない。
- 継続した支援が必要な子供・家庭に対して、それぞれ専任の教師を設定し、連携を図っている。
- 毎日の朝会（ミーティング）で、教師間の情報交換や打ち合わせが図られ、共通実践内容や指導上の配慮を共有している。
- 学級運営委員会での生徒との対話では、教師に見えにくい学級の実態を把握するようにしている。



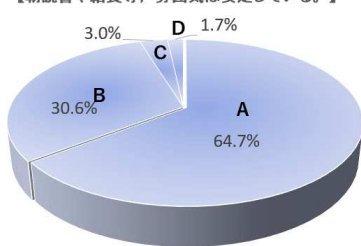
【取組を通じた改善点】

- 家庭との連携では、全教師で対応する体制が、保護者に戸惑いを生じさせることになり、学級別に連絡担当の教師を設けた。
- 生徒の状況に関する情報共有を図る時間が十分にとれない実態があり、教育課程上に、「生徒理解に特化した学年研修部会」を月2回程度、位置付けた。
- チーム担当の学級を固定したため、子供たちから全教師との交流を望む声があり、改善策を検討。教師が2チームあり、固定化したことについて改善の要望があった。全ての教師が回ってくる仕組みにしてほしいという要望は、生徒自身がチーム担任制の意義をよく理解しているからこそその意見であったと考える。しかしながら、全教師でのローテーションでは、学級を巡るスパンが空きすぎて、生徒の変化を把握しづらいという課題を解消できないことが分かり始めていた。そこで、改善案として、道徳や学級活動について、全教師のローテーションを組み、チームを越えて、少しでも生徒全員に接する機会をつくることとした。このことにより、2つのチーム間にも交流が生まれるようになった。

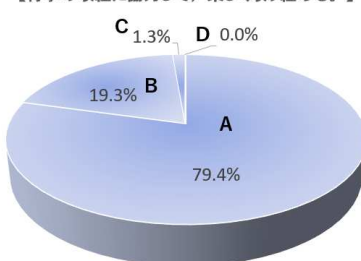
学年チーム担任制に対する生徒の意識調査結果から

- 子供たちは全体的に肯定的な受けとめであったが、漠然とした不安を抱える子供もあり、意識的な声かけなど、見守りが必要であることが分かった。
- チーム担任制では、学級担任を固定しない分、思春期に抱えがちな諸問題に、マンパワー（人数と適材）を集中させ、速やかな解決を図る体制が可能となる。子供との関係性や教師の得意分野を生かして、効果的な指導や支援を行える。実際に、不登校の生徒への支援やいじめの事案の解決に対して、チームとしてフレキシブルな体制をとり、成果を挙げることができた。意識調査でも、多くの教師が関わる体制には、子供も安心感があるとの結果であった。
- チームでの見守りにも限界はあり、子供が相談しやすいことが大切である。SNSの普及とともに学校外でトラブルに発展しているケースも多く見られる。チーム担任制では、子供が話しやすい教師にいつでも相談できるよう取り組んできた。調査の記述でも、「相談したいと思った時に気兼ねなく悩みを打ち明けられたことが良かった」という感想が一番多かった。

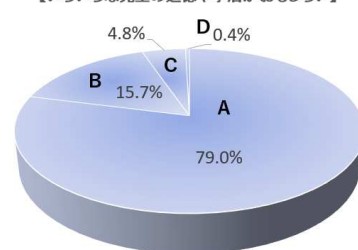
【朝読書や給食等、雰囲気は安定している。】



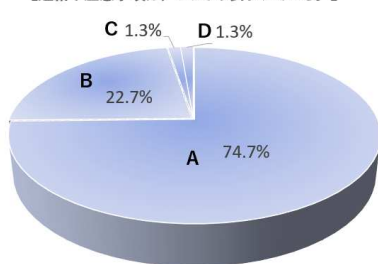
【行事の取組に協力して、楽しく取り組める。】



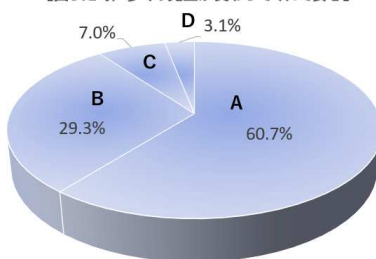
【いろいろな先生の道徳や学活が面白い】



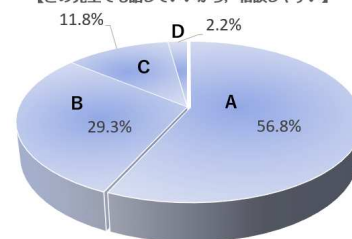
【連絡や注意事項は、しっかり伝わっている。】



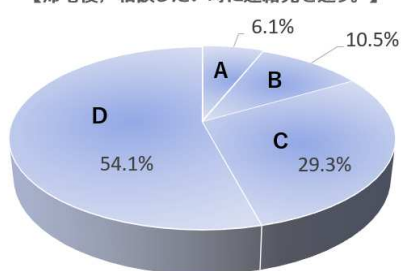
【困った時、多くの先生が関わってくれて安心】



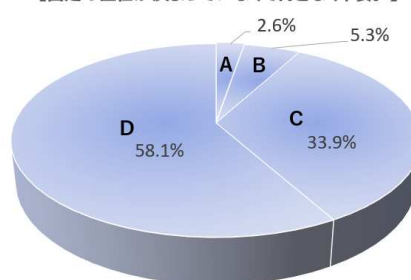
【どの先生でも話していいから、相談しやすい】



【帰宅後、相談したい時に連絡先を迷う。】



【固定の担任が決まっていなくて何となく不安。】



A...とてもそう思う B...だいたいそう思う C...あまり思わない D...ぜんぜん思わない